

1. 16・17世紀、近代合理主義思想に基づき自然科学の研究が急速に発達し、その成果が社会・経済に大きな進歩を促した一大変化。
2. **PERSON** ポーランドの聖職者・天文学者。地動説を唱え死後弟子によってその著書『天体の回転について』が発表された。
3. **PERSON** イタリアの大科学者。手製の望遠鏡で木星の衛星を観察し地動説を数式で証明したり振り子の等時性や物体落下の法則を発見した。
4. **PERSON** ドイツの天文学者。17世紀初めに惑星の三法則を発見し、地動説を確立した。
5. **PERSON** 万有引力の法則を発見し、微積分法を創始したイギリスの科学者。
6. 「宇宙という書物は、数学という言葉で書かれている」という言葉に象徴される、ガリレイが説いた学問の方法。
7. ガリレイの自然観で、落体の法則のように「どのように起きるか」を重視する見方。
8. 中世に支配的だったアリストテレスの自然観で、「何のために起きるか」を重視する見方。「全ては神の完全性に近づくため」と説明される。
9. 16・17世紀、イギリスのベーコンを祖とする、認識の根拠を実験・観察に求めた合理主義の哲学。後天的な経験（感覚による）を重視。
10. 実験・観察から真理に到達しようとする『新オルガヌム』を著した、近代合理主義思想の先駆といえるイギリスの哲学者。
11. ベーコンが、知識は自然を支配するための手段であり、そのためには自然に従うことが大切であると説いた言葉。
12. ベーコンが説いた、正しい知識を獲得することを妨げる四つの偏見。
13. ベーコンが説いた、目の錯覚などの「人類という種の性質によるイドラ」。
14. ベーコンが説いた、「井の中の蛙」的な考えなどの「個人の主観や独断によるイドラ」。
15. ベーコンが説いた、流行や流言などの「人々の交流から生じる」イドラ。
16. ベーコンが説いた、権威や伝統を盲信するなどの「虚構を信じ込まれることから生じる」イドラ。
17. ベーコンを祖とする（イギリス）経験論哲学の学問方法。個々の事実の実験・観察を通して一般法則を導き出す。
18. **BOOK** ベーコンの主著。イドラの排除や帰納法など新しい学問研究の方法論が述べられた。アリストテレスの『オルガノン（機関）』にちなむ。
19. **PERSON** 17世紀、イギリスの経験論哲学者・政治思想家。『人間悟性論』や『統治論（市民政府二論）』が主著。経験論の大成者。
20. **WORD** ロックが、認識の起源は経験（感覚と反省）であるとして、生得観念（生まれつきにもつ判断力）を否定した言葉。
21. **PERSON** 18世紀、イギリスの経験論哲学者・歴史家。経験論を押し進めた結果、無神論を主張。
22. **WORD** ヒュームが、実体や因果法則などの観念は習慣による主観的な確信にすぎないと主張した言葉。
23. 普遍的な真理を認識できないとする哲学的立場で、独断論を否定。認識の主観性・相対性を主張。デカルト、モンテーニュ、ヒュームらが代表。ヒュームは、常に偶然そうなった可能性があることに着目し、「経験から確実に学べる知識などない」とした懐疑論に立つ。

T. Q. 「ベーコンの学問観とは、どういうものか？」

T. A.

ベーコンは、正しい知識を妨げる偏見である4つのイドラの排除を前提にして、帰納法を提唱した。帰納法とは、実験や観察による個別の事実から一般法則を導き出すものである。彼の「知は力なり」という言葉が示すように、知識は自然を支配するための手段であると考えた。